

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03095

研究課題名(和文) シュメール初期王朝時代の女性たち：その宗教祭儀に関わる経済分析の視点から

研究課題名(英文) Women in the Sumerian Early Dynastic Period: From the Perspective of Economic Analysis Related to their Religious Activities

研究代表者

唐橋 文 (Karahashi, Fumi)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：80453679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：紀元前3千年紀後半に繁栄したシュメールの都市国家ラガシュの楔形文字粘土板文書のなかの、人々へのオオムギ配給や土地割り当て記録、および供物の奉納記録などを、それぞれのタイプごとに粘土板文書作成の年と月、記録に言及されている人名・職名・家族関係、その他の特記すべき事項を抽出しデータベース化した。これによって、データの検索が容易になり、またデータの見落としもかなり防げるようになった。そして、これらのデータの詳細な分析を通して、ラガシュの支配層に属する女性たちが自分自身の経済力を背景に、宗教祭儀に物質的貢献をし積極的に参加することによって、都市国家の政治体制の維持に寄与していたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家父長制の社会において、女性、特に既婚女性が公の場で行動する時一女性が独自に行動する余地はほとんどないという認識の下一女性の行動がどのようなものであっても、その女性は自分の夫の名において、すなわち、夫の代わりに行動していると一般的に理解・解釈される。確かに古代史研究において女性の主体性を論じることは的外れで、本研究の女性たちも当時の社会の仕組みの中で行動しているに過ぎない。しかし、女性の経済力が女性に積極的な社会参加を促したことは資料から明らかである。本研究は緻密な資料分析を通して、女性は受動的でその居場所は家の中という役割概念を再考する機会を提供することができたのではないかと思う。

研究成果の概要(英文)：I constructed a database consisting of information about text types, date of documents (ruler's name, year, and month), personal names, occupations, family relations, and other specifics, which were collected from the texts recording barley rations, land allotments, work assignments, offerings and festival provisions, and so forth of the Lagash E2-M12 archive from the third millennium BCE.

Through detailed analyses of these data, I was able to show that the elite Lagash women had their own economic means and suggest that backed up by this economical power, they contributed materials such as sheep and goats for the offerings and festival banquets that were held in public mostly by the queen. Certainly, the number of these women was quite small compared to men. Nonetheless, they actively participated the Lagash public life, both economically and religiously. It can be concluded that they, in so doing, played an important role in maintaining the political system of Lagash.

研究分野：古代オリエント史

キーワード：シュメール語 初期王朝時代 主教祭儀 ジェンダー 女性史 経済活動 古代オリエント

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

エミ(E2-MI2)文書(下記の「2.研究の目的」を参照)の解読と研究はヨーロッパで20世紀初頭に開始された。本邦においてE2-MI2文書の研究は1950年代後半以降盛んに行われ、当時の社会制度、土地や賦役および食料の割当・配給システム、織物生産に従事する女性労働者等について優れた研究が多数発表された。欧米でもその間E2-MI2文書の一部が翻字・翻訳・註釈付きで公刊され、E2-MI2の経済および宗教祭儀に焦点を当てた研究がなされた。それらの先駆的研究から、E2-MI2文書を産出したE2-MI2という組織が、都市国家ラガシュの王妃を管理者とする、ある程度独立性を持つ経済組織であったことが明らかにされた。そして、その主たる役割は、国家としてのまとまりを維持するために、宗教祭儀を実施・持続することであったという提案がなされた。これらの先行研究の中に、王妃の役割の重要性やE2-MI2から耕作地が割当てられた女性たちへの言及はすでに散見されるが、E2-MI2文書に登場する女性たちをシステムティックに研究する試みはまだなされていない状態であった。

## 2. 研究の目的

本研究は、紀元前3千年紀後半、メソポタミア南部(現イラク南部)に存在した都市国家ラガシュの王妃を最高責任者とする組織E2-MI2(文字通りには「女の家」という意味)が残したシュメール語文献資料(E2-MI2文書)を用いながら、この組織が、どのような経済基盤の上に構築され、どのような人員で、どのような活動を行ったのかという基本的な理解を深め、その中で王妃をはじめとする女性たちがどのように行動し、どのような役割を果たしたのかについて明らかにすることを目的とした。特に、女性たちの社会的地位(=経済力)と社会参加(=宗教祭儀)の側面に光をあてることにより、最終的に彼女たちが政治権力とどのように関わっていたかを理解することに務めた。さらに、このような王妃を中核とする経済組織と宗教祭儀、および、それを基盤とする国家権力のあり方が、シュメール学の専門分野を超えて、他の時代や地域で家父長制をとる社会の類似した現象を分析する際の参考資料となることを目指した。

## 3. 研究の方法

研究の一次史料E2-MI2文書はE2-MI2の経済活動を記録するものである。例をあげると、E2-MI2で労働に従事する人員へのオオムギや羊毛の配給や土地の割当て記録、主に王妃が管理する宗教祭儀用の動物・食料・ビールなどの出納記録などがある。それらは基本的に、E2-MI2から誰に何がどれ位与えられたか、あるいは、E2-MI2へ誰が何をどれ位もたらしたか、という情報を非常に簡潔に記している。こういった文書を扱う際に有効な方法の一つと考えられるのがプロソポグラフィ研究である。本研究もこれにならい、データベースを構築しながら、そこから得られるソーシャルネットワーキングの情報を読み解いていくことを研究の方法とした。

## 4. 研究成果

(1) 研究期間中にE2-MI2文書全てをカバーすることはできなかったが、申請者の研究テーマに関わる文書グループ資料をデータベース化する作業は完了した。現在、国内の他の研究者たちがこのデータベースにオンラインで自由にアクセスできるよう、ファイルメーカーに入れた情報をエクセルの表に置き換える工夫をしているところである。こうしたデータベースを用いることによって、都市国家ラガシュのソーシャルネットワーク分析が容易になるのではないかと期待される。

(2) 2017年に国内外から11名の研究者を集め、古代メソポタミアとエジプトおよびヒッタ

トを中心に女性の宗教的・経済的役割について議論する国際ワークショップを開催し、“そこで発表された論文を Women's Religious and Economic Roles in Antiquity” 「古代世界における女性の宗教的・経済的役割」のタイトルの下に基盤研究 C の報告書としてまとめた。なお、これらの発表原稿は「女性、宗教、経済」を扱う論文集として De Gruyter のシリーズ Studies in Ancient Near East Records から出版される予定である。

(3) プロソポグラフィの研究は、特に一定量のデータを蓄積した後、資料を分析する手段として極めて有効であったと言える。女性グループの特性に注目し、(a) 明確な職業を持つ女性、(b) 割当て土地の女性受給者、(c) 供物の女性奉献者、を扱ったいくつかの論文では、データベースを使うことでクロスレファレンス的に特定の女性たちの職業や家族関係、および他の社会的・経済的集団との関係などの情報を網羅し、また、それらを関連づけることができた。特に (b-c) のメンバーは重なることが多く、女性たち自身が都市国家ラガシュのエリート層の出身で、かつエリート層に属す男性の妻という身分を持つことが判明した。これらの女性たちからなる供物奉献者は数の上では男性の 6 分の 1 にも満たないが、文書は、彼女たちが質的には宗教祭儀用の家畜やビールなどを男性と同じように E2-M12 に納めていることを記録している。そして、これらの女性の供物奉献者たちが耕作用の借地を保有する等、供物の調達を可能にする経済的基盤を持っていたという点でも男性と差がないことが明らかになった。

(4) これらの成果をもとに今後「女性のエイジェンシー」の観点を取り入れたジェンダー研究を展開していくことができるのではないかと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Fumi Karahashi, Agnes Garcia-Ventura	4. 巻 13
2. 論文標題 Overseers of Textile Workers in Presargonic Lagash	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 KASKAL	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1400/251409	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Fumi Karahashi	4. 巻 63
2. 論文標題 Some Remakes on Women in the Presargonic E2-MI2 Corpus from Lagash/Girsu	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央大学文学部紀要（史学）	6. 最初と最後の頁 35-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Fumi Karahashi	4. 巻 51
2. 論文標題 "Some Professions with Both Male and Female Members in the Presargonic E2-MI2 Corpus"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 47-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Fumi Karahashi	4. 巻 55
2. 論文標題 On the Cultic Aspect of the "Reform of Urkagina": Some Changes in the Festival of the Goddess Baba	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 唐橋文
2. 発表標題 初期王朝時代ラガシュ・テキストにおける女性のマシュダリア奉獻者
3. 学会等名 シュメール研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fumi Karahashi
2. 発表標題 "Royal Nurses and Midwives in Presargonic Lagash Texts"
3. 学会等名 Rencontre Assyriologique Internationale (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Fumi Karahashi
2. 発表標題 Women's Participation in Socio-Economic Activities in Presargonic Lagash: Mashdaria-Gift-Givers
3. 学会等名 The Third Workshop on Gender, Methodology and the Ancient Near East (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Regine Pruzsinszky, Claudia, S. Suter, Stephanie L. Budin, Fumi Karahashi, その他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Universidad de Alcalá	5. 総ページ数 435 (267-291)
3. 書名 Las mujeres en el Oriente cuneiforme	

1. 著者名 Agnes Garcia-Ventura, Brigitte Lion, Fumi Karahashi, Katrien de Graf、その他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Ugarit Verlag	5. 総ページ数 536 (133-146)
3. 書名 What 's in a Name?: Terminology Related to the Work Force and Job Categories in the Ancient Near East	

1. 著者名 Lluís Feliu, Fumi Karahashi, Gonzalo Rubio, Nicole Brisch, その他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 493 (159-171)
3. 書名 The First Ninety Years: A Sumerian Celebration in Johor of Miguel Civil	

1. 著者名 松島英子、唐橋文、小川正廣、原田英子、唐澤一友、沖田瑞穂、渡邊浩司、渡邊徳明	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央大学人文科学研究所	5. 総ページ数 271 (29-50)
3. 書名 続 英雄詩とは何か	

1. 著者名 Brigitte Lion, Cecile Michel, Francis Joannes, Fumi Karahashi, Bertrand Lafont, Ichiro Nakata, Eiko Matsushima, Yoko Watai, Laura Cousin, Josue J. Justel, Masamichi Yamada, Catherine Breniquet, Camille Lecompte、その他	4. 発行年 2016年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 574 (57-70)
3. 書名 The Role of Women in Work and Society in the Ancient Near East	

1. 著者名 妹尾達彦、川越泰博、榎本泰子、唐橋文、新免康、斯波照雄 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央大学人文科学研究所	5. 総ページ数 728 (511-542)
3. 書名 アフロ・ユーラシア大陸の都市と社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----